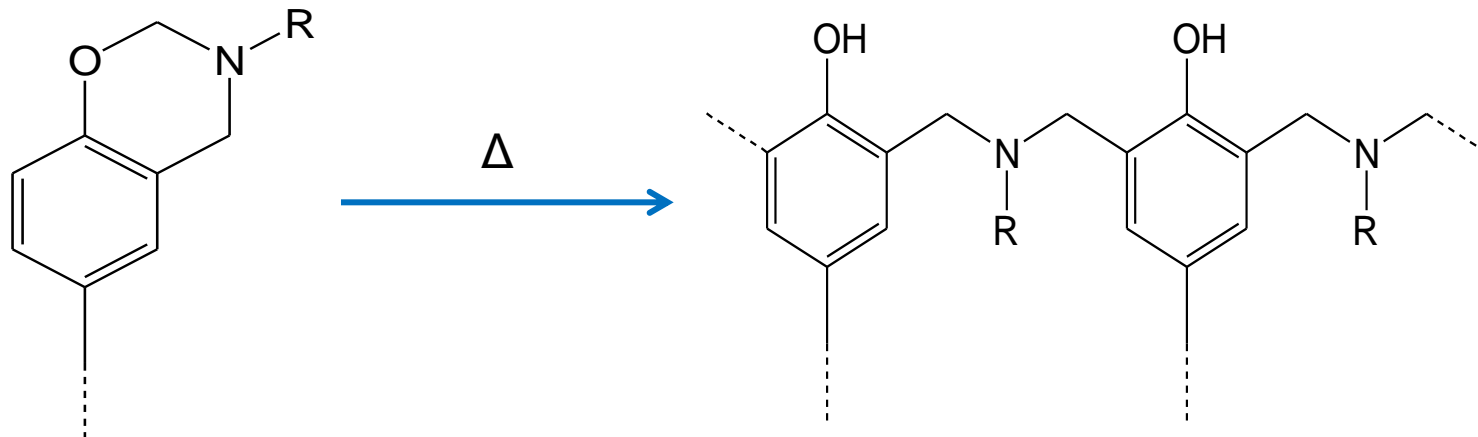


熱硬化性樹脂

B X Z

B e n z o x a z i n e

What's Benzoxazine?



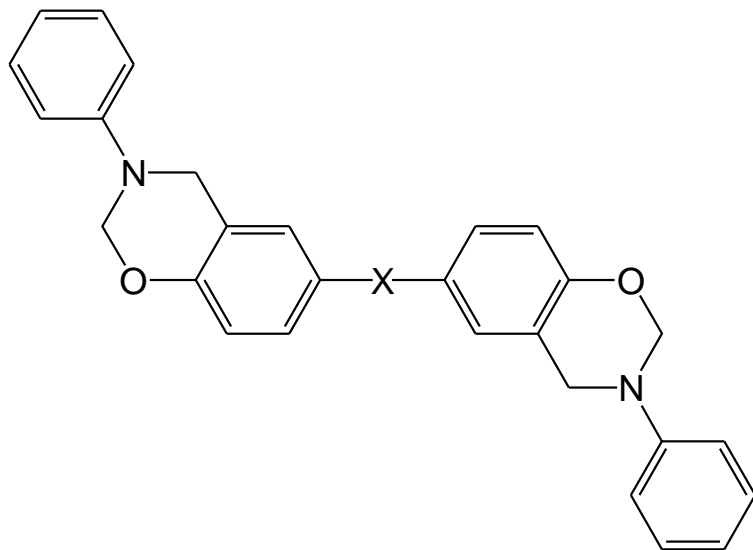
熱によりオキサジン環が開環し、フェノール性水酸基が生じると共に重合致します。

特徴

- ✓ 寸法安定性
- ✓ 耐熱性
- ✓ 難燃性
- ✓ 電気絶縁性

優れた硬化物が得られます！

用途例：接着剤
プリント基板、
マトリックス樹脂 等



※代表骨格であり製品は混合物となります。

BF-BXZ Stage: Pilot

X= CH₂

代表品質 付着溶剤 ≤2%


アニリン ≤2%

BS-BXZ Stage: Laboratory

X= CH₂

代表品質 付着溶剤 ≤2%

アニリン ≤2%



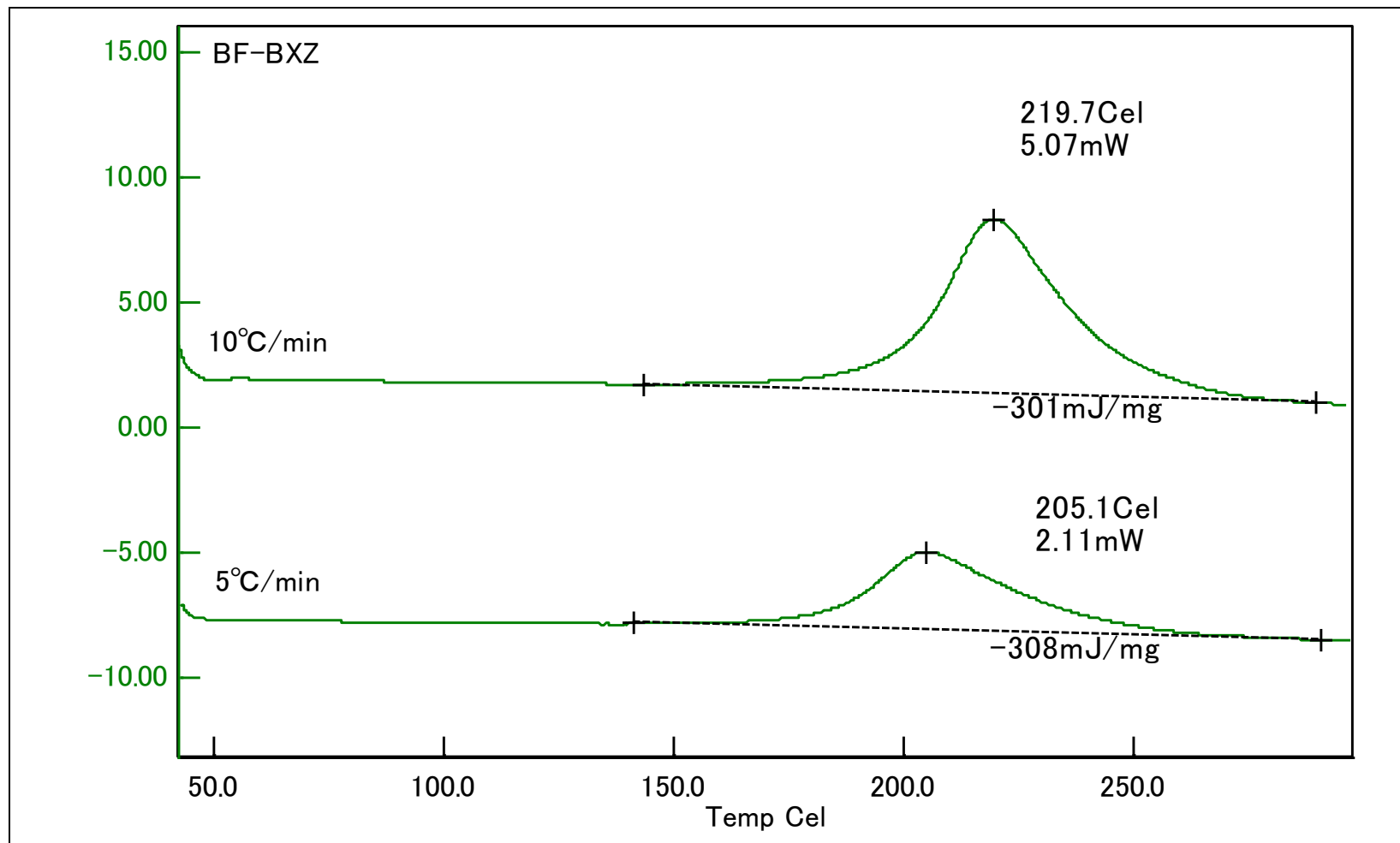
この他にもフェノール、アミン化合物の組み合わせにより
多様な構造設計が可能です。
ご要望が御座いましたらお問い合わせ下さい。

✓ 溶解性

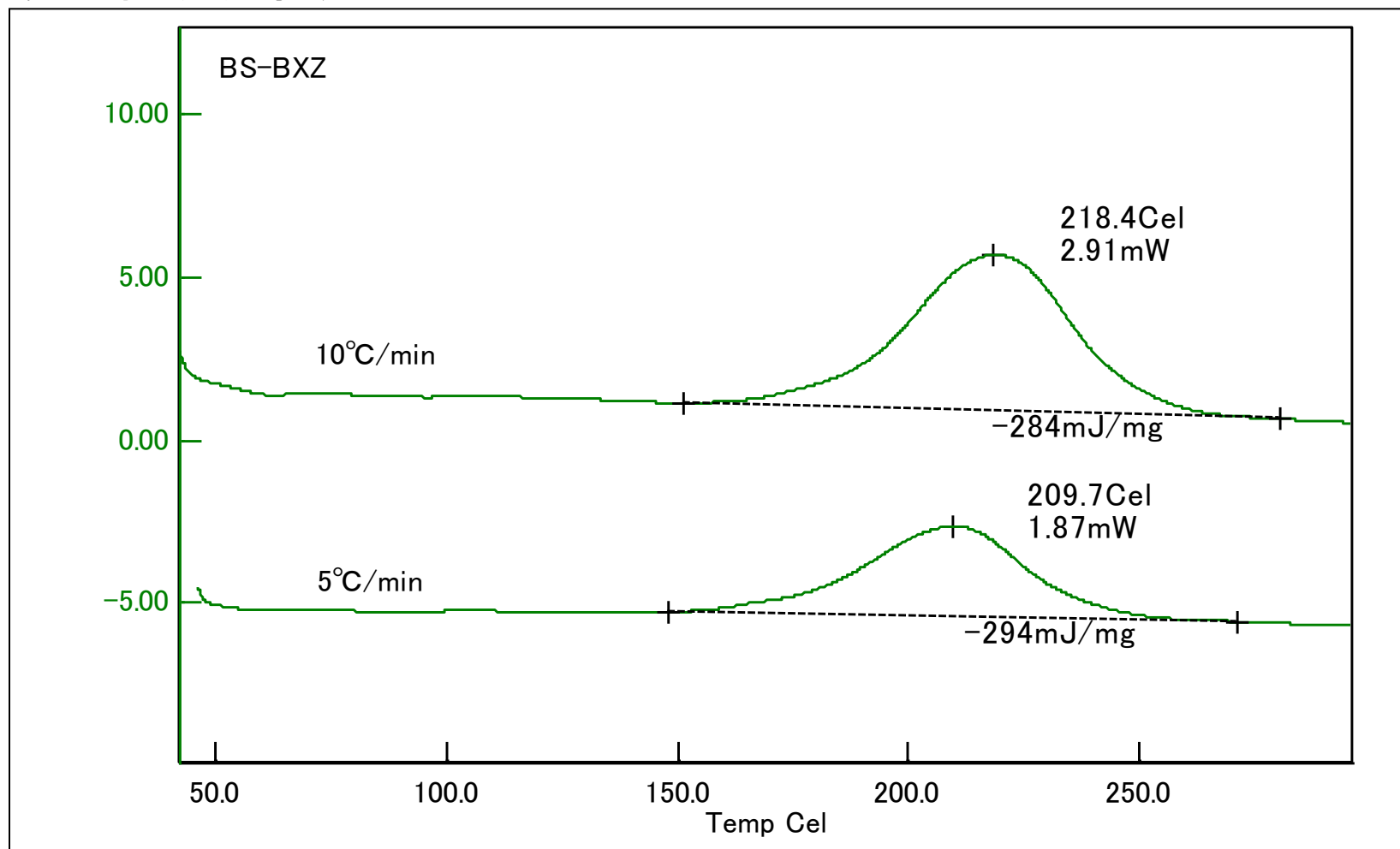
溶媒種		BS-BXZ	BF-BXZ
ハロゲン化炭化水素系	クロロホルム	○	○
エーテル系	プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート	○	○
エステル系	酢酸エチル	○	○
非プロトン性極性溶媒系	N,N-ジメチルホルムアミド	○	○
ケトン系	メチルイソブチルケトン	○	○
芳香族炭化水素系	トルエン	×	○
脂肪族炭化水素系	ヘキサン	×	×
アルコール系	ブタノール	×	×
水	水	×	×

方法: BXZ0.5gに対し溶媒2mlを加え室温における溶解性を確認。溶解するものを○不溶のものを×と表記した

✓硬化時の発熱挙動



✓硬化時の発熱挙動



✓TGA

	BS-BXZ	BF-BXZ
5%重量減少温度(Td5)	367°C	337°C
残炭率(550°C)	76%	54%

測定条件

使用機器: TG/DTA6200
測定温度: 30~300°C
昇温速度: 10°C/min
flow: 窒素 150ml/min

本条件にて1stRUN実施後、自然冷却し、測定温度を30~600°Cに変更し2ndRUNを実施、重量減少-5%の温度及び550°Cの残分を読み取る。